

西尾市小学校プール全体計画

令和5年3月

西尾市教育委員会

目次

第1章 小学校プール全体計画の考え方	1
1. 計画の考え方	1
2. 計画の位置付け	2
3. 計画期間	3
第2章 小学校プールの現状	4
1. 施設の配置状況	4
2. 小学校プール施設の利用状況	5
3. 小学校プールの老朽化状況	6
第3章 温水プールを利用した小学校水泳指導支援事業の検証結果	8
1. 温水プールを利用した小学校水泳指導支援事業	8
（1）事業の目的	8
（2）実施校	8
（3）実施期間等	8
（4）小学校学習指導要領が求める水泳運動等	9
（5）水泳授業の学年別目標	9
（6）児童の学年別目標の達成割合	10
2. 温水プールを利用した小学校水泳指導支援事業の検証	11
（1）官民連携による小学校水泳指導調整会議	11
（2）温水プール利用のメリット、デメリット	11
（3）調整会議でのこれまでの意見	12
（4）授業時間数の検証	12
3. 小学校水泳指導支援事業の総括	12
第4章 小学校プールの運営方法の検討	13
1. 学級数の推移	13
2. 必要な温水プール	14
（1）温水プール授業実施可能回数	14
（2）小学校プール実施必要回数	14
（3）不足するプールの実施回数	14
3. ライフサイクルコストの比較	15
（1）学校プールを更新した場合のライフサイクルコスト（LCC）	15
（2）水泳指導支援事業委託にした場合のコスト	17

(3) 新たな温水プールを建設した場合のライフサイクルコスト（LCC）	19
(4) 新たな温水プールを建設せず、既存温水プールを最大限(20校)活用しつつ、一部の学校 (5校)を更新した場合のライフサイクルコスト（LCC）	21
(5) ライフサイクルコスト（LCC）の比較まとめ	22
4. メリット・デメリットの整理	23

第5章 小学校プール管理運営基本方針及び全体計画	24
1. 小学校プール管理運営基本方針	24
2. 小学校プールの全体計画	26
(1) 温水プールへの学校割り当て	27
(2) 小学校水泳授業の温水プールへの移行計画	28
資料 「温水プールを利用した水泳授業アンケート」集計結果	29

第1章 小学校プール全体計画の考え方

1. 計画の考え方

小学校における水泳授業は、水に親しみながら体力の向上を図るとともに、「水辺に囲まれている」という本市の地理的環境を鑑み、生命の安全確保にもつながる運動として、大変意義のあるものです。

本市における教育の在り方として、将来を担う全ての子ども達にできるだけ良い環境で教育を受ける機会を提供していくためには、ひとつの市の中で子ども達に教育格差が生じることなく、また、学校運営に支障をきたさないよう、水泳授業が実施されることが不可欠であると考えています。

本市には、小学校が25校あり、校舎の多くは昭和40年代から昭和50年代に建設されています。校舎の建設に合わせて建設された学校プールが多くあり、校舎と同様に全体的に老朽化が進行しており、プール槽の漏水や傾きにより使用できないプールもあります。

また、学校のプールは、水泳授業で使用する期間も短く、維持・管理コストもかかっています。

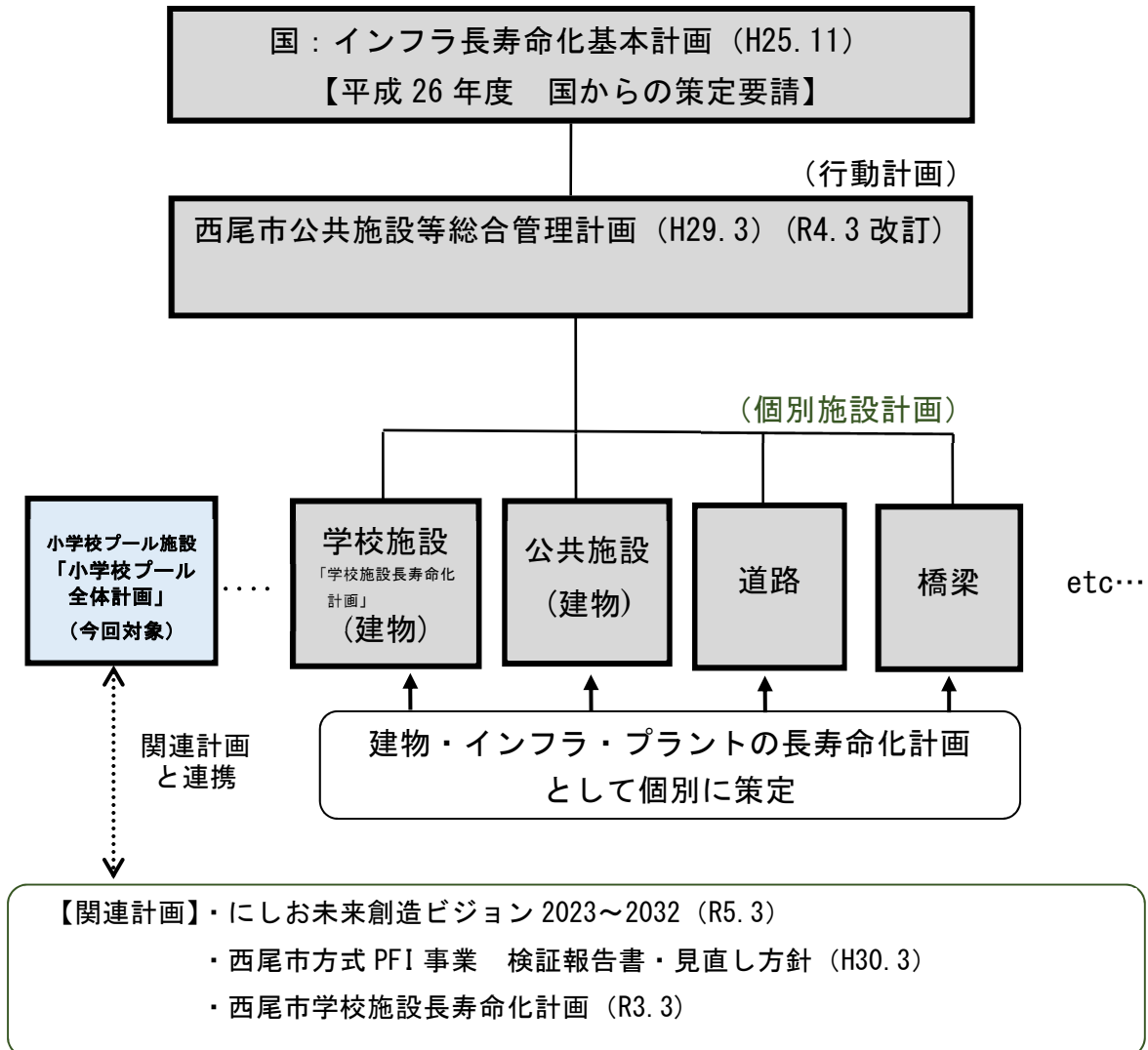
小学校プール全体計画は、以上のような本市の現状を踏まえ、今後の小学校プールの管理運営方針を示すことを目的として策定するものです。

策定に当たっては、今後見込まれるプール施設の更新・維持管理コストと民間などの温水プールを利用した場合のコスト比較をするとともに、温水プールを利用して水泳授業を実施したモデル校の検証結果を踏まえて検討しました。

なお、中学校プールについても、小学校プールと同様に老朽化が進んでいます。今後、水泳授業や部活動など中学校プールの利用状況等を整理した上で、今後、具体的な管理運営方針を検討していきます。

2. 計画の位置付け

本計画は、西尾市公共施設等総合管理計画に基づく、西尾市学校施設長寿命化計画を補完する小学校プール施設に係る計画として位置付けられるものです。



図：本計画の位置付け

【西尾市学校施設長寿命化計画】

公共施設等総合管理計画に基づき、個別施設ごとの具体的な対応方針を定める長寿命化計画として、学校施設を対象に策定したもの。

対象施設は、校舎や体育館など 1 棟あたりの延床面積が 200 m²以上の建築物とし、小学校 25 校 111 棟、中学校 9 校 63 棟、義務教育学校 1 校 3 棟の計 35 校 177 棟および学校給食センター4 施設 4 棟 (令和 3 年度 (2021 年度) に開設した新学校給食センターを含む。) が対象である。

なお、倉庫や屋外便所など延床面積が 200 m²未満の建築物 (給食室を除く。)、プール施設は含まれていない。

3. 計画期間

本計画の期間は令和5年度を開始年度とし、令和10年度までを第1期、令和11年度から令和15年度までを第2期として計画し、第1期終了までに中間見直しを行っていくものとしします。

なお、今後の児童生徒数の動向やプールの劣化状況、財政状況などを踏まえ、必要に応じて見直しを行っていきます。

【計画期間】

令和5年度～令和15年度（11年間）

年度	R5～R10 年度	R11～R15 年度
小学校プール 全体計画	第1期計画期間	第2期計画期間

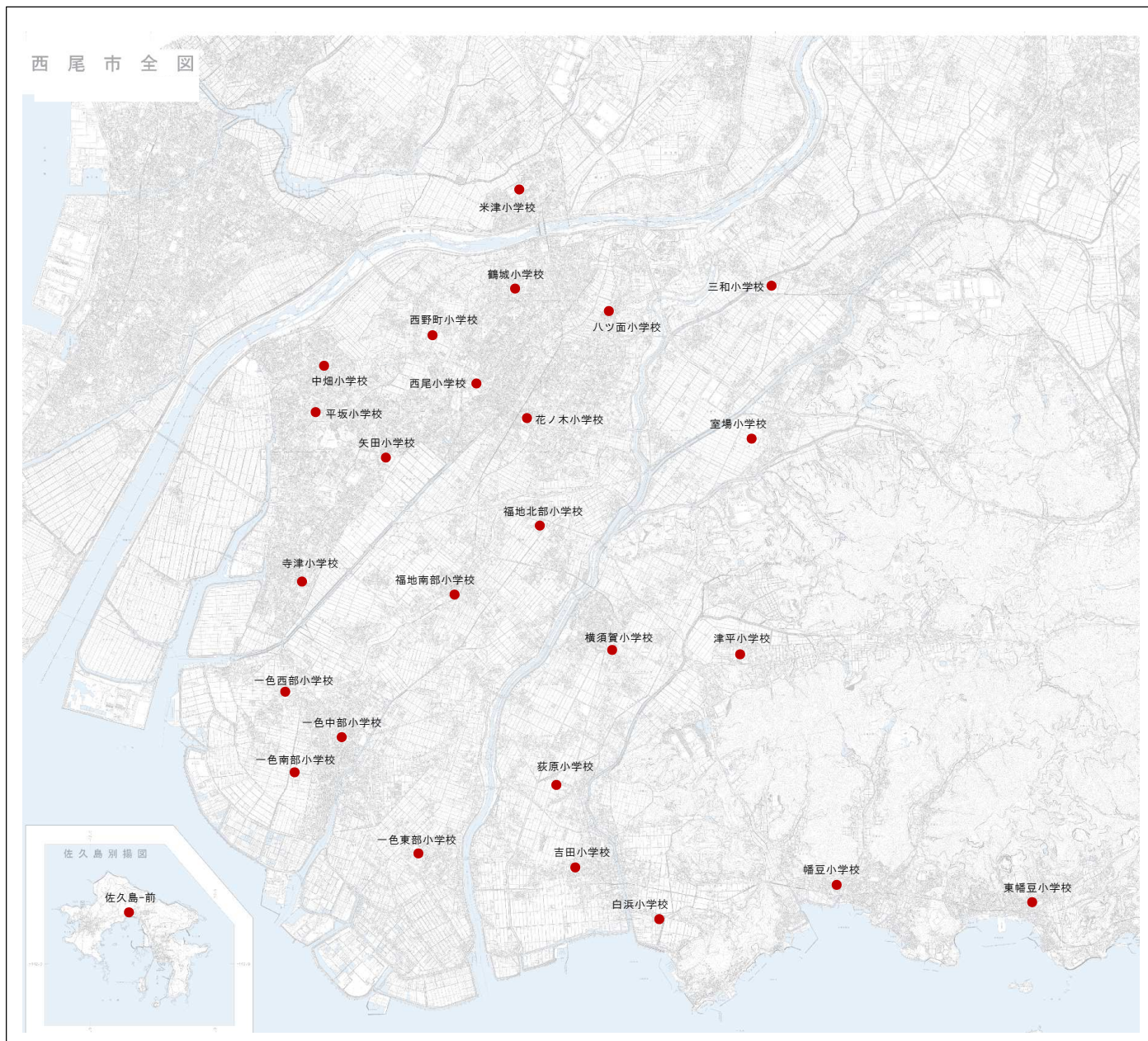
図 小学校プール全体計画の計画期間

第2章 小学校プールの現状

1. 施設の配置状況

本計画の対象となる小学校 25 校及び義務教育学校（前期課程）1 校の配置状況は以下のとおりです。

■対象施設の配置状況



(西尾市全図を基に加工)

2. 小学校プール施設の利用状況

学校プールを使用している学校は22校で、使用ができない学校は1校、取り壊した学校が2校になります。佐久島しおさい学校は学校にプールがないため、一色南部小学校のプールを使用しています。

なお、令和4年度に屋外の学校プールを使用して授業を実施した22校のプールの使用日数の平均は18日になります。

矢田小学校は令和元年度から、花ノ木小学校及び横須賀小学校は令和3年度から、「西尾市小学校水泳指導支援委託事業」により市内の温水プールを利用しています。

◎学校プールの利用状況（令和4年度実績）

No	小学校名	使用期間		日数	水泳授業 予定回数	水泳授業 実施回数	実施率
		開始日	終了日				
1	平坂小学校	6月13日	7月19日	19日	62回	62回	100%
2	寺津小学校	6月8日	7月19日	25日	85回	63回	74.1%
3	東幡豆小学校	6月13日	7月15日	17日	69回	69回	100%
4	八ツ面小学校	6月17日	7月15日	16日	14回	13回	92.9%
5	幡豆小学校	6月14日	7月19日	25日	91回	60回	65.9%
6	一色南部小学校	6月6日	7月15日	30日	60回	38回	63.3%
7	福地南部小学校	6月16日	7月22日	12日	36回	27回	75%
8	一色東部小学校	6月20日	7月15日	20日	72回	61回	84.7%
9	一色西部小学校	6月13日	7月13日	12日	79回	73回	92.4%
10	一色中部小学校	6月20日	6月30日	9日（※1）	60回	28回	46.7%
11	荻原小学校	6月17日	7月15日	13日	62回	33回	53.2%
12	吉田小学校	6月13日	7月19日	24日	66回	53回	80.3%
13	米津小学校	6月6日	7月15日	24日	108回	75回	69.4%
14	福地北部小学校	6月13日	7月15日	25日	77回	62回	80.5%
15	室場小学校	6月17日	7月19日	12日	56回	50回	89.3%
16	白浜小学校	6月20日	7月19日	15日	75回	44回	58.7%
17	鶴城小学校	6月13日	7月15日	15日	29回	17回	58.6%
18	津平小学校	6月15日	7月15日	17日	100回	68回	68%
19	西尾小学校	6月21日	7月19日	20日	36回	35回	97.2%
20	西野町小学校	6月16日	7月15日	17日	60回	56回	93.3%
21	中畑小学校	6月20日	7月15日	14日	48回	38回	79.2%
22	三和小学校	6月16日	7月19日	19日	53回	41回	77.4%
			(22校平均)	18日	64回	49回	77.3%（※2）

※1 一色中部小学校は、ろ過機故障のためプール授業を途中から中止する。

※2 実施率の算出（実施率合計 1700.1%/22校=77.3%）

◎水泳指導支援事業を実施している学校

No	小学校名	水泳指導支援事業期間		日数	水泳授業 予定回数	水泳授業 実施回数	実施率
		開始日	終了日				
1	横須賀小学校	6月7日	10月27日	16日	64回	64回	100%
2	花ノ木小学校	6月2日	10月28日	20日	80回	80回	100%
3	矢田小学校	5月9日	1月23日	32日	124回	124回	100%

3. 小学校プールの老朽化状況

小学校プールは建設後50年以上経過した学校が5校、40年以上が13校、30年以上が3校、20年以上が1校で、約8割の学校プールが40年以上経過しています。

横須賀小学校は、プール槽の漏水や傾きのため使用ができない状況です。矢田小学校及び花ノ木小学校は、校舎増築のための用地確保や老朽化によりプールを取り壊しました。

◎学校プールを使用している学校(22校)

(令和4年度時点)

No	小学校名	築年	50年経過年(和暦)	経過年数	残年数
1	平坂小学校	1964年	2014(平成26)年	58年	-8年
2	寺津小学校	1965年	2015(平成27)年	57年	-7年
3	東幡豆小学校	1968年	2018(平成30)年	54年	-4年
4	八ツ面小学校	1969年	2019(令和元)年	53年	-3年
5	幡豆小学校	1969年	2019(令和元)年	53年	-3年
6	一色南部小学校	1974年	2024(令和6)年	48年	2年
7	福地南部小学校	1975年	2025(令和7)年	47年	3年
8	一色東部小学校	1976年	2026(令和8)年	46年	4年
9	一色西部小学校	1976年	2026(令和8)年	46年	4年
10	一色中部小学校	1979年	2029(令和11)年	43年	7年
11	荻原小学校	1980年	2030(令和12)年	42年	8年
12	吉田小学校	1980年	2030(令和12)年	42年	8年
13	米津小学校	1981年	2031(令和13)年	41年	9年
14	福地北部小学校	1981年	2031(令和13)年	41年	9年
15	室場小学校	1981年	2031(令和13)年	41年	9年
16	白浜小学校	1981年	2031(令和13)年	41年	9年
17	鶴城小学校	1982年	2032(令和14)年	40年	10年
18	津平小学校	1982年	2032(令和14)年	40年	10年
19	西尾小学校	1983年	2033(令和15)年	39年	11年
20	西野町小学校	1984年	2034(令和16)年	38年	12年
21	中畑小学校	1986年	2036(令和18)年	36年	14年
22	三和小学校	1993年	2043(令和25)年	29年	21年

◎プールが使用不能な学校(1校)

No	小学校名	築年	50年経過年(和暦)	経過年数	残年数	備考
1	横須賀小学校	1980年	2030(令和12)年	42年	8年	

◎プールの取り壊した学校(2校)

No	小学校名	築年	50年経過年(和暦)	経過年数	残年数	備考
1	花ノ木小学校	1971年	—	—	—	令和2年取り壊し
2	矢田小学校	1971年	—	—	—	令和元年取り壊し

第3章 温水プールを利用した小学校水泳指導支援事業の検証結果

1. 温水プールを利用した小学校水泳指導支援事業

(1) 事業の目的

本事業は、西尾市教育委員会が平成28年5月27日に策定した「学校プール管理運営基本方針」に基づき、令和元年度から4年度までモデル事業として実施しました。学校プールが老朽化等により使用困難になった小学校の水泳授業を温水プールで民間事業者に指導支援を委託して実施しました。

(2) 実施校

小学校名	プール施設／モデル事業区分	実施年度	温水プール移行理由
矢田小学校	西尾ドルフィンスイミングクラブ（民間施設）／A	令和元・3～4年度 ※2年度はコロナの影響により中止	児童数増に伴う校舎増築用地確保のため（撤去済）
花ノ木小学校	ホワイトウェイブ21（公共施設）／B	令和3～4年度	
横須賀小学校			学校のプール槽が漏水や傾きにより使用できなくなったため

(3) 実施期間等

小学校名	プール施設・実施期間／指導支援受託業者	年間指導支援時間	年間実施日数・回数 学年ごとの実施形態
矢田小学校	西尾ドルフィンスイミングクラブ・5月～1月（3年度はコロナの影響により6月～1月）／(有)ドルフィンスイミングスクール	1学級につき8時限 1回2時限として、各学級4回実施	32日・124回 （元年度は30日120回、3年度は25日97回実施し、7日27回中止） 期間中に全学年・学級が4回を順繰りに実施
花ノ木小学校	ホワイトウェイブ21・6月～10月（3年度はコロナの影響により6月～12月）／3年度はアップビート(株)（指定管理者構成企業）、4年度はアイレクススポーツライフ(株)（指定管理者）	※1回2時限（45分×2＋放課）には、着がえやバス移動の時間が含まれ、プールに入る時間は60分程度	20日・80回 （3年度は22日88回） 期間の前半に5・3・2年生、後半に6・4・1年生を集中して実施
横須賀小学校			16日・64回 期間中に全学年・学級が4回を順繰りに実施

・各学校共に1日につき4回（4学級）実施。

(4) 小学校学習指導要領が求める水泳運動等

学 年	運動の構成	動きの身に付け方
1・2年生 (低学年)	水の中を移動する運動遊び	水につかって歩いたり走ったりする。
	もぐる・浮く運動遊び	息を止めたり吐いたりしながら、水にもぐったり浮いたりする。
3・4年生 (中学年)	浮いて進む運動	けのびや初歩的な動きをする。
	もぐる・浮く運動	息を止めたり吐いたりしながら、いろいろなもぐり方や浮き方をする。
5・6年生 (高学年)	クロール、平泳ぎ	手や足の動きに呼吸を合わせて続けて長く泳ぐ。 25～50m程度を目安
	安全確保につながる運動	背浮きや浮き沈みをしながら続けて長く浮く。

- ・低学年では中学年の、中学年では高学年の、高学年では中学校の水泳の学習につなげていくことが求められている。

(5) 水泳授業の学年別目標（温水プール）

矢田小学校（民間のスイミングクラブで各学級4回実施）

学 年	目 標	内 容 ※下線は4年度から
1 年 生	潜る 10 秒、浮き身 5 秒	顔つけ、潜り、バブリング、背浮き
2 年 生	けのび 5 m、バタ足 5 m	バタ足の動き、ポビング、背浮き
3 年 生	面かぶりバタ足 10m、 面かぶりクロール 10m	連続ポビング、背浮き（着衣泳）
4 年 生	クロール 15m、 平泳ぎ 足のみ 7 m	壁けりスタート、息継ぎ動作、 背浮き
5 年 生	クロール 20m、平泳ぎ 10m	息継ぎ動作、壁けりスタート、背浮き（着衣泳）、 平泳ぎの腕の動きで前プレスキック
6 年 生	クロール 25m、平泳ぎ 25m	息継ぎ動作、壁けりスタート、背浮き
特別支援学級	児童別の目標を設定	グループ分けをして対応

花ノ木小学校・横須賀小学校（ホワイトウェイブ 21 で各学級 4 回実施）

学 年	目 標	内 容
1 年 生	顔つけ(10 秒)/背浮き(補助具 10 秒) バブリング	水慣れ（顔つけ・浮き身・キック・呼吸動作など）
2 年 生	バタ足 5 m(けのびから) 背面キック 5 m	水慣れ（顔つけ・浮き身・キック・呼吸動作など）
3 年 生	クロール(ロールクロール 1 セット)	プルからの息継ぎ 背面姿勢での呼吸確保
4 年 生	ロールクロール 25m エレメンタリーバック 10m	手足の動きを洗練 エレメンタリーバックの導入
5 年 生	クロール 25m 平泳ぎ 10m	クロール 25m 平泳ぎ プル・プレスの導入
6 年 生	クロール 25m、平泳ぎ 25m	クロール 25m、平泳ぎ 25m
特別支援学級	児童別の目標を設定	グループ分けをして対応

- ・温水プールでの各学級の水泳授業は、児童を泳力別のグループに分けて行い、4 回目に泳力テスト（効果測定）を実施。
- ・目標と内容は学習指導要領を基本に受託事業者が提案。

(6) 児童の学年別目標の達成割合

民間のスイミングクラブでの水泳授業の場合

学 年	目 標	効果測定での 児童の達成割合	備 考
1 年 生	潜る 10 秒 浮き身 5 秒	6 割超 5 割	達成割合は 元・4 年度の平均 (3 年度は効果測定未実施)
2 年 生	だるま浮き 10 秒 (元年度) けのび 5 m	9 割弱 6 割	
3 年 生	面かぶりバタ足 10m 面かぶりクロール 10m	6 割弱 6 割弱	元・4 年度の平均 (3 年度は効果測定未実施)
4 年 生	クロール 15m 平泳ぎ 足のみ 7m	5 割超 4 割	元・3・4 年度の平均
5 年 生	クロール 20m 平泳ぎ 10m	ク ロ ー ル 6 割 平 泳 ぎ 5 割	元・3・4 年度の平均
6 年 生	クロール 25m 平泳ぎ 25m	ク ロ ー ル 7 割 平 泳 ぎ 6 割	4 年度 (元年度は資料なし、 3 年度は効果測定未実施)

ホワイトウェイブ 21 での水泳授業の場合

学 年	目 標	効果測定での 児童の達成割合	備 考
1 年 生	顔つけ (10 秒)、背浮き (補助具 10 秒)、 バブリング	8 割弱	3・4 年度の平均
2 年 生	バタ足 5m (けのびから) 背面キック 5m	8 割 8 割	3・4 年度の平均
3 年 生	クロール (ロールクロール 1 セット)	7 割弱 (3 年度)	4 年度の効果測定はクロール 25m、 背面キック 10m で 4 割弱が達成
4 年 生	ロールクロール 25m エレメンタリーバック 10m	6 割弱 (3 年度) 6 割 (3 年度)	4 年度の効果測定はクロ ール 25m で 6 割が達成
5 年 生	クロール 25m 平泳ぎ 10m	ク ロ ー ル 7 割弱 平 泳 ぎ 5 割	3・4 年度の平均
6 年 生	クロール 25m 平泳ぎ 25m	ク ロ ー ル 8 割 平 泳 ぎ 6 割弱	3・4 年度の平均

学校プールでの水泳授業の場合

(上記温水プール実施校と 4 年度の学年目標が同様の小学校の児童の達成割合)

学 年	目 標	効果測定での 児童の達成割合	備 考
5 年 生	クロール 25m 平泳ぎ 10m	ク ロ ー ル 6 割 平 泳 ぎ 4 割超	12 校の児童の 4 年度の平均 3 校 //
6 年 生	クロール 25m 平泳ぎ 25m	ク ロ ー ル 6 割超 平 泳 ぎ 6 割弱	10 校の児童の 4 年度の平均 8 校 //

2. 温水プールを利用した小学校水泳指導支援事業の検証

(1) 官民連携による小学校水泳指導調整会議

官民連携による小学校水泳指導調整会議（以下「調整会議」）は、西尾市教育委員会が策定した「学校プール管理運営基本方針」に基づき、学校プールが使用できなくなった小学校を対象に実施する水泳指導支援事業を民間事業者に委託するにあたり、水泳指導の水準の向上を図るとともに、水準の不均一化を防止するための官民による対話の場として、令和元年度から設置したものです。

調整会議は、水泳指導支援事業（以下「事業」）の実施対象学校の教員、受託する民間事業者2者、有識者、教育委員会事務局職員、交流共創部スポーツ振興課職員で構成し、年3回（事業開始前・中間・完了後に）開催しています。（※水泳授業を中止した2年度を除く）

調整会議では、1回目（春：事業開始前）に水泳の指導支援計画や指導内容について、2回目（秋：事業中間）は、前半の事業実績や後半の指導支援計画について、3回目（秋：事業完了後）は、年間の事業実績の報告を受けて、意見交換をしたり評価をしたりすることにより、事業をより良いものにしていくための場としています。

(2) 温水プール利用のメリット・デメリット（調整会議での実施校等からの意見）

① メリット

【環境】

・天候に左右されず、暑すぎることも寒すぎることもなく、安定した環境で常に同じコンディションで行えている事がとても良い。

【水泳指導】【意欲】

・インストラクターや支援（補助）体制がとても充実していて、水に恐怖心を持っていた子も安心して、楽しく泳いでいるのを感じる。

・上手く泳げる子と泳げない子を分けて教えていて、上手く泳げない子は無理なく楽しく取り組めて、意欲的な姿が多くみられる。上手く泳げる子にも技術的に細かいところも教えてくれる。

【水泳指導】

・水に対して抵抗感のある子の指導において、専門的な視点からの意見・助言が得られる。

・指導が専門的でとても分かりやすい。

・サポートしてもらうのに安心して子供が体を預けられる。子供たちを褒めながら伸ばしてくれる。

・フォームの指導をきちんとしてくれる。

・水が苦手な子についても段階を追って慣れる経験をさせてくれて、とても良い。

【意欲】

・今まで（移行前）は見学の子が多かったが、用具も忘れずに楽しみにしている。

【評価】

・担任も評価に集中できる。今までは、指導をずっとしていると、最後に泳力を測るだけで評価しがちだったのが、指導の過程も見て評価でき、とても良いという声が教師から上がっている。

【負担軽減・評価】【安全】

・担任がプールサイドでクラス全体の動きを見ながら、評価にも無理なく取り組める。安全面でも多くの人の目が行き届く。

② デメリット

【実施形態】

・1年の期間中に全学年が等間隔に4回実施すると授業の間隔が空いてしまう。プールを多くの学級数で利用するほど間隔が長くなる。一方で、学年別に短期集中型で実施すると、後半の子供に対する水難の指導が夏以前にできなくなる。

(3) 調整会議でのこれまでの意見

【水泳指導】

・学年別目標について、1年生、2年生、3年生、・・・と段階を追ってずっとやっていくと、6年生がこの目標になるという連続性を持たせた考え方で設定してほしい。また、目標の達成について、全児童が達成できる100%を目指すものなのか、達成者が60%あれば良いものなのか、明確にしていくべき。

・指導内容に背浮きの練習や、一部の学年で着衣泳も取り入れられ、事業が始まった頃（令和元年度）よりも安全水泳という流れが強くなってきた。速く泳ぐことよりも命を守る安全水泳を十分意識して実施してほしい。

(4) 授業時間数の検証

温水プールを利用する3校（矢田・花ノ木・横須賀小学校）では、水泳の授業を各学級4回（1回2時限 計8時間）ずつ行い、年間を通して実施しました。このため、体育の年間計画やその他の授業への支障の有無を調査しました。

① 体育の年間計画への支障（他の運動（種目）の授業時間数の減少など）

→ 3校とも支障なし

② 他の教科への支障（他の科目の授業時間数の減少など）

→ 3校とも支障なし

3. 小学校水泳指導支援事業の総括

令和元年度から4年度まで（2年度は中止）モデル事業として実施してきた小学校水泳指導支援事業は、メリットとして、「天候に左右されず実施できる。」「専門のインストラクターにより質の高い指導が受けられるし、担任が児童を評価する時に集中してできる。」「多くの目が行き届くため、安全である。」「水に恐怖心を持っていた子や上手く泳げない子もレベルに応じた指導が受けられ、楽しく泳いでいる。」などが挙げられ、教育的効果が非常に高く、教員の負担軽減にもつながり大きなメリットがあります。

また、実施3校の児童、保護者、教員へのアンケート結果でも大多数から好評を得ています。

※「温水プールを利用した水泳授業アンケート」の集計結果は、29ページの[参考資料](#)参照

第4章 小学校プールの運営方法の検討

1. 学級数の推移

令和4年5月1日現在の学級数及び令和3年学校施設長寿命化計画における将来の学級数の予測の考え方から算出した温水プールを利用する各学校の学級数は次の表のとおりです。

表：学校別学級数の推移

学校名	2022	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
	R4	R7	R12	R17	R22	R27	R32	R37	R42
西尾小	23	22	23	23	22	20	20	20	20
花ノ木小	20	24	21	19	19	19	19	19	19
八ツ面小	18	20	19	19	19	19	16	16	14
鶴城小	24	21	20	20	20	20	20	20	20
西野町小	13	12	10	10	9	9	10	7	7
米津小	15	15	14	14	14	14	14	14	14
中畑小	12	13	13	13	13	13	11	10	7
平坂小	17	20	19	17	17	15	14	14	14
矢田小	31	32	33	28	29	28	28	28	28
寺津小	13	16	13	13	13	13	13	13	13
福地南部小	13	13	13	13	13	13	13	10	9
福地北部小	11	9	7	7	7	7	7	7	7
室場小	9	11	8	8	8	8	8	8	8
三和小	15	14	13	13	13	13	13	13	13
一色中部小	16	14	14	14	14	14	14	14	14
一色東部小	12	11	10	13	13	13	12	10	8
一色西部小	13	10	10	10	7	7	8	7	7
一色南部小	9	9	7	7	7	7	7	7	7
横須賀小	16	14	14	14	14	14	14	14	14
津平小	7	7	7	7	7	7	7	7	7
荻原小	13	10	9	9	9	9	9	9	9
吉田小	12	7	9	12	9	9	9	9	7
白浜小	7	7	7	7	7	7	7	7	7
幡豆小	12	11	12	12	12	12	12	12	12
東幡豆小	7	7	7	7	7	7	7	7	7
佐久島-前※	1	1	1	1	1	1	1	1	1
学級数計	359	350	333	330	323	318	313	303	293
×4									
温水プール 授業必要回数 (1学級4回)	1,436	1,400	1,332	1,320	1,292	1,272	1,252	1,212	1,172

※学級数は、普通学級数に特別支援学級(1学級)を加えたものとする。(矢田小学校は特別支援学級2学級を加える。)

※令和6年度以降は小学校全学年35人学級で算出

※佐久島おさい学校は3学級(前期課程1・2年生、3・4年生、5・6年生)あるが、少人数のため合同で行うものとし、1学級で算出する。

2. 必要な温水プール

既設の温水プールを午前中に週5日間で利用した場合の年間の授業実施可能回数は、1,120回になります。一方、すべての小学校プールの実施必要回数(令和4年度の学級数で算出)は、1,436回必要であり、温水プールで授業を実施するためには、316回不足します。そのため、すべての小学校が温水プールで授業を行うには新たな温水プールの建設が必要になります。

(1) 温水プール授業実施可能回数

施設名	週当たり可能回数	年間(28週)可能回数
西尾ドルフィンSC(6レーン)	4回(AM)×5日=20回	560回
ホワイトウェイブ21(6レーン)	4回(AM)×5日=20回	560回
合計		①1,120回

(2) 小学校プール実施必要回数

学校名	学級数	必要回数	学校名	学級数	必要回数	学校名	学級数	必要回数
西尾	23	92	寺津	13	52	横須賀	16	64
花ノ木	20	80	福地南部	13	52	津平	7	28
八ツ面	18	72	福地北部	11	44	荻原	13	52
鶴城	24	96	室場	9	36	吉田	12	48
西野町	13	52	三和	15	60	白浜	7	28
米津	15	60	一色中部	16	64	幡豆	12	48
中畑	12	48	一色東部	12	48	東幡豆	7	28
平坂	17	68	一色西部	13	52	佐久島	1	4
矢田	31	124	一色南部	9	36	合計	359	② 1,436

※特別支援学級は人数に応じて1学級もしくは2学級として算入。

※1回は2時限相当、年間4回の授業(8時限相当)を実施。

(3) 不足するプール実施回数

①温水プール授業実施可能回数 1,120回－②小学校プール実施必要回数 1,436回＝	△316回
---------------------------------------------	-------

3. ライフサイクルコストの比較

(1) 学校プールを更新した場合のライフサイクルコスト（LCC）

小学校プール施設の1校当たりの建設費と50年間で実施する大規模改修及び小規模改修を含めた経費のLCCは4億4千361万4千円と試算されます。

小学校25校の建設から50年間使用した場合のLCCは、117億905万円が必要となります。

また、プールを建て替える際の撤去費用は、1プールにつき、およそ3千100万円が別途必要になります。

表：学校プール施設のLCCの算出

1. 学校プール施設の経費算定の条件										
(1) 施設の目標使用年数は、50年と設定する。										
(2) 建設費の建物・電気・機械の内訳比率は、平成5年度三和小学校プール改築工事を参考値として算出する。										
(3) 学校プールは、10年毎に小規模改修・30年目に大規模改修、電気・機械設備は15年に1回改修を行う。										
(4) 工事費は、令和4年度に他県で建設中の3校の学校プールの工事費の平均値を参考に算出する。 ※25m6コース（1学校は5コース）										
(5) 実施設計費は、建設費の5%で算出する。										
※(2) 建設費の比率				※(3) 大規模改修・小規模改修の工事費の割合						
工事費率	建物	79%		費用 (建物)	小規模改修 15% / 10年	大規模改修 30% / 30年	改築 50年			
工事費率	電気	2%		費用 (電気)	小規模改修 30% / 15年	大規模改修 —	改築 50年			
工事費率	機械	19%		費用 (機械)	小規模改修 60% / 15年	大規模改修 —	改築 50年			
2. 学校プールの建設及び改修に係る費用の算出 (単位：千円)										
名称・種別	目標使用年数	工事費	分類	10年目	15年目	20年目	30年目	40年目	45年目	計
学校プール	50	221,532	建物	26,251		26,251	52,503	26,251		432,537
			電気		1,329		1,329		1,329	
			機械		25,254		25,254		25,254	
計		221,532		26,251	26,583	26,251	79,086	26,251	26,583	① 432,537
3. 実施設計の算出 (単位：千円)										
221,532×5%=										② 11,077
(単位：千円)										
プール施設のLCC (建設から50年間の維持保全)	①+②		443,614							
1年平均	8,872									

◎小学校プールを更新した場合のLCCの算出

①プールの施設の建設及び改修に係る費用（1校当たり）

プール建設費（50年間の大規模・小規模改修費を含む）	443,614,000 円
----------------------------	----------------------

②プールの維持管理に係る経費（1校当たり/年）

修繕費	404,000 円
光熱水費	560,000 円
保守点検費	32,100 円
検査費	35,700 円
合計	1,031,800 円

50年間の維持管理に係る費用（1校当たり）

1,031,800 円×50年＝	51,590,000 円
------------------	---------------------

※修繕費は、各学校の令和3年度から過去10年間の費用の25校の平均値金額を計上しています。

※光熱水費、保守点検費及び検査費は、令和元年度（コロナ前の平常使用時直近）の費用の24校（矢田小学校を除く）の平均金額を計上しています。

③プール更新・50年間の維持管理に係る費用（1校当たり）

①443,614,000 円＋②51,590,000 円＝	495,204,000 円
-------------------------------	----------------------

④プール建設時の国庫補助金（1校当たり）

学校施設環境改善交付金（参考市平均）	26,842,000 円
--------------------	---------------------

⑤プール更新・維持管理に係るLCC（1校当たり）

③495,204,000 円－④26,842,000 円＝	468,362,000 円
-------------------------------	----------------------

⑥25校の小学校プールを更新した場合のLCC

468,362,000 円×25校＝	11,709,050,000 円
--------------------	-------------------------

(2) 水泳指導支援事業委託にした場合のコスト

すべての小学校プールを、温水プールに移行し水泳指導支援事業委託にした場合の1年当たりの委託料は、8千99万400円と試算されます。50年間の委託料の合計は、40億4千952万円が必要となります。

なお、すべての小学校が温水プールの利用に移行するためには、現在、使用している温水プールだけでは受け入れることができないため、新たな温水プールの建設が必要となります。

表：温水プール委託料の算出

1. 温水プールを利用した場合の委託料算定の条件

- (1) 温水プールの利用期間は、50年と設定する。
- (2) 学級数は、令和4年5月1日現在の普通学級数に特別支援学級(1学級分)を加えた数値を基に算出する。
(矢田小学校は特別支援学級(2学級)加算、佐久島しおさい学級は、全体で1学級で算出する。)
- (3) 各学級とも年間4回の水泳授業支援を想定する。
- (4) 1回当たりの必要経費は令和4年度の「水泳指導支援事業委託料」から算出する。

【1回あたりの単価】

	対象校	令和4年度 契約金額 (単位：円)	学級数	延べ回数 (単位：回)	プラン毎の 延べ回数 (単位：回)	1回当たりの単価 (契約金額÷枠数) (単位：円)	2プラン 平均単価金額 (単位：円)
モデルプランA (ドルフィン)	矢田小学校	7,150,000	31	124	124	57,661	56,407
モデルプランB (ホワイトウェイブ)	花ノ木小学校	7,942,000	20	80	144	55,153	
	横須賀小学校		16	64			
合計		15,092,000	67	268	268		

採用単価
56,400

※ 各校・各学級とも1回当たりの指導支援時間は、90分(2時限分)程度とする。(移動時間、着替えの時間を含む。)

※ 矢田小学校・花ノ木小学校・横須賀小学校は、年間指導支援回数4回、年間指導支援時間は8時限分の水泳授業で実施。

◎小学校別水泳指導支援事業委託料(令和4年5月1日時点の学級数により算定)

(単位:円)

	計算式	1年当たりの委託料	50年間の委託料合計
西尾小学校	56,400円×23学級×4回	5,188,800	259,440,000
花ノ木小学校	56,400円×20学級×4回	4,512,000	225,600,000
八ツ面小学校	56,400円×18学級×4回	4,060,800	203,040,000
鶴城小学校	56,400円×24学級×4回	5,414,400	270,720,000
西野町小学校	56,400円×13学級×4回	2,932,800	146,640,000
米津小学校	56,400円×15学級×4回	3,384,000	169,200,000
中畑小学校	56,400円×12学級×4回	2,707,200	135,360,000
平坂小学校	56,400円×17学級×4回	3,835,200	191,760,000
矢田小学校	56,400円×31学級×4回	6,993,600	349,680,000
寺津小学校	56,400円×13学級×4回	2,932,800	146,640,000
福地南部小学校	56,400円×13学級×4回	2,932,800	146,640,000
福地北部小学校	56,400円×11学級×4回	2,481,600	124,080,000
室場小学校	56,400円×9学級×4回	2,030,400	101,520,000
三和小学校	56,400円×15学級×4回	3,384,000	169,200,000
一色中部小学校	56,400円×16学級×4回	3,609,600	180,480,000
一色東部小学校	56,400円×12学級×4回	2,707,200	135,360,000
一色西部小学校	56,400円×13学級×4回	2,932,800	146,640,000
一色南部小学校	56,400円×9学級×4回	2,030,400	101,520,000
横須賀小学校	56,400円×16学級×4回	3,609,600	180,480,000
津平小学校	56,400円×7学級×4回	1,579,200	78,960,000
荻原小学校	56,400円×13学級×4回	2,932,800	146,640,000
吉田小学校	56,400円×12学級×4回	2,707,200	135,360,000
白浜小学校	56,400円×7学級×4回	1,579,200	78,960,000
幡豆小学校	56,400円×12学級×4回	2,707,200	135,360,000
東幡豆小学校	56,400円×7学級×4回	1,579,200	78,960,000
佐久島しおさい学校(前期)	56,400円×1学級×4回	225,600	11,280,000
合計	56,400円×359学級×4回	80,990,400	4,049,520,000

◎温水プールを利用した場合の委託料

水泳指導支援委託料	4,049,520,000円
-----------	-----------------------

(3) 新たな温水プールを建設した場合のライフサイクルコスト（LCC）

すべての小学校プールを温水プールに移行するためには、新たな温水プールの建設が必要になります。そのため、新たな温水プールの建設した場合のライフサイクルコストを試算します。

新たな温水プール施設の建設費と50年間で実施する大規模改修及び小規模改修を含めた施設の建設及び改修に係る費用は21億186万4千円と試算されます。

また、新たな温水プールの維持管理に必要な50年間の経費は22億9千715万円と試算され、新たな温水プールを50年間使用した場合のLCCは、41億9千737万4千円が必要となります。

表：新たな温水プール施設のLCC算出

<p>1. 温水プール施設の経費算定の条件</p> <p>(1) 施設の目標使用年数は、50年と設定する。</p> <p>(2) 建設費の建物・電気・機械の内訳比率はの令和4年度建設中の他県の温水プール工事費を参考値として算出する。</p> <p>(3) 温水プールは、10年毎に小規模改修・30年目に大規模改修、電気・機械設備は15年に1回改修を行う。</p> <p>(4) 建設費は、令和4年度建設中の他県の温水プールの工事費を参考に算出する。 ※プール：25m×7レーン、小プール、延床面積1700㎡想定</p> <p>(5) 実施設計費は、令和4年度建設中の他県の温水プールの設計費を参考に算出する。</p> <p>※(2) 建設費の比率</p> <table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 20px;"> <tr><td>工事費率</td><td>建物</td><td>68%</td></tr> <tr><td>工事費率</td><td>電気</td><td>10%</td></tr> <tr><td>工事費率</td><td>機械</td><td>22%</td></tr> </table> <p>※(3) 大規模改修・小規模改修の工事費の割合</p> <table border="1" style="display: inline-table;"> <tr> <td>費用</td> <td>小規模改修</td> <td>大規模改修</td> <td>改築</td> </tr> <tr> <td>(建物)</td> <td>15% / 10年</td> <td>30% / 30年</td> <td>50年</td> </tr> <tr> <td>費用</td> <td>小規模改修</td> <td>大規模改修</td> <td>改築</td> </tr> <tr> <td>(電気)</td> <td>30% / 15年</td> <td>—</td> <td>50年</td> </tr> <tr> <td>費用</td> <td>小規模改修</td> <td>大規模改修</td> <td>改築</td> </tr> <tr> <td>(機械)</td> <td>60% / 15年</td> <td>—</td> <td>50年</td> </tr> </table>											工事費率	建物	68%	工事費率	電気	10%	工事費率	機械	22%	費用	小規模改修	大規模改修	改築	(建物)	15% / 10年	30% / 30年	50年	費用	小規模改修	大規模改修	改築	(電気)	30% / 15年	—	50年	費用	小規模改修	大規模改修	改築	(機械)	60% / 15年	—	50年														
工事費率	建物	68%																																																							
工事費率	電気	10%																																																							
工事費率	機械	22%																																																							
費用	小規模改修	大規模改修	改築																																																						
(建物)	15% / 10年	30% / 30年	50年																																																						
費用	小規模改修	大規模改修	改築																																																						
(電気)	30% / 15年	—	50年																																																						
費用	小規模改修	大規模改修	改築																																																						
(機械)	60% / 15年	—	50年																																																						
<p>2. 温水プールの建設及び改修に係る費用の算出 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称・種別</th> <th>目標使用年数</th> <th>工事費</th> <th>分類</th> <th>10年目</th> <th>15年目</th> <th>20年目</th> <th>30年目</th> <th>40年目</th> <th>45年目</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">温水プール</td> <td rowspan="3">50</td> <td rowspan="3">1,033,600</td> <td>建物</td> <td>105,427</td> <td></td> <td>105,427</td> <td>210,854</td> <td>105,427</td> <td></td> <td rowspan="3">2,063,064</td> </tr> <tr> <td>電気</td> <td></td> <td>31,008</td> <td></td> <td>31,008</td> <td></td> <td>31,008</td> </tr> <tr> <td>機械</td> <td></td> <td>136,435</td> <td></td> <td>136,435</td> <td></td> <td>136,435</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>1,033,600</td> <td></td> <td>105,427</td> <td>167,443</td> <td>105,427</td> <td>378,297</td> <td>105,427</td> <td>167,443</td> <td>① 2,063,064</td> </tr> </tbody> </table>											名称・種別	目標使用年数	工事費	分類	10年目	15年目	20年目	30年目	40年目	45年目	計	温水プール	50	1,033,600	建物	105,427		105,427	210,854	105,427		2,063,064	電気		31,008		31,008		31,008	機械		136,435		136,435		136,435	計		1,033,600		105,427	167,443	105,427	378,297	105,427	167,443	① 2,063,064
名称・種別	目標使用年数	工事費	分類	10年目	15年目	20年目	30年目	40年目	45年目	計																																															
温水プール	50	1,033,600	建物	105,427		105,427	210,854	105,427		2,063,064																																															
			電気		31,008		31,008		31,008																																																
			機械		136,435		136,435		136,435																																																
計		1,033,600		105,427	167,443	105,427	378,297	105,427	167,443	① 2,063,064																																															
<p>3. 実施設計の算出 (単位：千円)</p> <table border="1"> <tr> <td>38,800,000円</td> <td>② 38,800</td> </tr> </table>											38,800,000円	② 38,800																																													
38,800,000円	② 38,800																																																								
<p style="text-align: center;">(単位：千円)</p> <table border="1"> <tr> <td>プール施設のLCC (建設から50年間の維持保全)</td> <td>①+②</td> <td>2,101,864</td> </tr> <tr> <td>1年平均</td> <td></td> <td>42,037</td> </tr> </table>											プール施設のLCC (建設から50年間の維持保全)	①+②	2,101,864	1年平均		42,037																																									
プール施設のLCC (建設から50年間の維持保全)	①+②	2,101,864																																																							
1年平均		42,037																																																							

◎温水プールを建設した場合のLCCの算出

①温水プール施設の建設及び改修に係る費用

プール建設費（50年間の大規模・小規模改修費を含む）	2,101,864,000 円
----------------------------	------------------------

②プールの維持管理に係る経費

消耗品費	260,000 円
燃料費	5,439,000 円
印刷製本費	52,000 円
光熱水費	5,670,000 円
修繕料	766,000 円
医薬材料費	198,000 円
通信運搬費	168,000 円
手数料	10,000 円
火災保険料	340,000 円
委託料	32,788,000 円
放送受信料	56,000 円
複写手数料	102,000 円
物品借上料	94,000 円
合計	45,943,000 円

50年間の維持管理に係る費用

45,943,000 円×50 年＝	2,297,150,000 円
--------------------	------------------------

*維持管理経費は、平成30年度の一色B&G海洋センターの予算を計上しています。

③プール建設及び改修と50年間の維持管理にかかる費用

①2,101,864,000 円＋②2,297,150,000 円＝	4,399,014,000 円
------------------------------------	------------------------

④プール建設時の国庫補助金

学校施設環境改善交付金（面積400㎡試算）	201,640,000 円
-----------------------	----------------------

⑤採用する温水プール建設・維持管理にかかるLCC

③4,399,014,000 円－④201,640,000 円＝	4,197,374,000 円
----------------------------------	------------------------

(4) 新たな温水プールを建設せず、既存温水プールを最大限（20校）活用しつつ、一部の学校（5校）を更新した場合のライフサイクルコスト（LCC）

① 5校の小学校プールを更新した場合のLCC

4.68億円（1校当たりのプールの50年LCC）×5校	2,340,000,000円
-----------------------------	-----------------------

②温水プール委託料（20校分）

40億円（25校50年委託）－8.91億円（5校分50年委託）	3,109,000,000円
---------------------------------	-----------------------

③ 5校の小学校プールを更新した場合のLCCと20校の温水プール委託料

① 2,340,000,000円＋②3,109,000,000円＝	5,449,000,000円
-----------------------------------	-----------------------

5校選定の考え方

プール授業必要回数

学校数	学級数	授業必要回数
25校	359学級	1,436回… ^①

温水プール授業実施可能数

施設名	週当たり可能回数	年間（28週）可能回数
西尾ドルフィンSC	4回（AM）×5日＝20回	560回
ホワイトウェイブ21	4回（AM）×5日＝20回	560回
合計		1,120回… ^②
不足回数 ^① － ^②		316回… ^③
不足学級数 ^③ ÷4回		79学級

※温水プールを建設しないためには、79学級以上の学校が自校プールを利用する必要がある。

※5校の内訳（プール建設後、比較的経過年数が短い学校を79学級になるよう選択）

鶴城小学校	24学級×4回＝96コマ	委託料270,720千円
米津小学校	15学級×4回＝60コマ	委託料169,200千円
三和小学校	15学級×4回＝60コマ	委託料169,200千円
西野町小学校	13学級×4回＝52コマ	委託料146,640千円
中畑小学校	12学級×4回＝48コマ	委託料135,360千円
学級計	79学級	委託料計891,120千円

(5) ライフサイクルコスト（LCC）の比較まとめ

小学校25校の学校プールを更新した場合の建設から50年間使用した場合のLCCは、117億905万円が必要となります。

また、すべての小学校プールを温水プールの利用に移行するためには、水泳指導支援事業委託にした場合の50年間の委託料の合計40億4千952万円と新たな温水プールの建設から50年間使用した場合の費用41億9千737万4千円を合算した82億4千689万4千円が必要となります。

全学校がプールを更新した場合と温水プールの利用に移行した場合のコスト比較では、温水プール利用に移行した場合の方が35億円ほどコスト面で優れていると試算されます。

なお、全学校が温水プールの利用に移行した場合と既存温水プールを活用しつつ、一部の学校プールを更新した場合のコスト比較では、一部の学校プールを更新した場合の方が28億円ほどコスト面で優れていると試算されます。

(1) 全小学校のプールを更新した場合のLCC

学校プールを更新した場合のLCC ※小学校25校すべてのプールを更新し、50年間維持管理した場合	11,709,050,000円 (約117億円)
-----------------------------------------------------	-----------------------------

(2) 温水プールに移行した場合のLCC

水泳指導支援事業委託にした場合のコスト ※小学校25校すべての水泳授業を50年間委託した場合	4,049,520,000円
新たな温水プールを建設した場合のLCC(※1) ※25m6コースの温水プールを建設し、50年間維持管理した場合	4,197,374,000円
合計	8,246,894,000円 (約82億円)

約35億円
(年7,000万円)

(3) 新たな温水プールを建設せず、既存温水プールを最大限(20校)活用しつつ、一部の学校(5校)を更新した場合のLCC

5校の小学校プールを更新した場合のLCCと 20校の温水プール委託料	5,449,000,000円 (約54億円)
---------------------------------------	---------------------------

約28億円
(年5,600万円)

※1. 新たな温水プールについては、学校の利用は平日の午前中に限る。そのため、平日午後や土日祝日は他の利用が可能であるが、本LCCは他の利用に係る維持管理費用も含むものとして算定。

4. メリット・デメリットの整理

小学校プールを更新した場合と温水プールに移行した場合のメリット、デメリットを整理します。

ケース	メリット	デメリット
【ケース1】 プールを更新した場合	<ul style="list-style-type: none"> ・校内にプールがあることで、施設の移動時間が少なく授業時間を有効に活用することができる。 ・消防用水利として利用ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクルコストが高い。 ・屋外のため天候に左右されやすく、近年の猛暑下での水泳授業は、熱中症や足の裏のやけどなど安全に注意しながら実施する必要がある。 ・プールの清掃及び点検、水質の管理等安全に水泳授業を行うために、教員の負担が多くかかる。 ・50年後に更新する必要がある。 ・児童数や学級数が減少しても施設の建設費や維持管理コストは、どの学校も一定にかかる。
【ケース2】 温水プールに移行した場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクルコストがすべてのプールを更新するよりも安い。 ・天候や気温に左右されることがなく年間を通じて安定した水泳授業が受けられる。 ・専門のインストラクターの指導が受けられるため泳力の向上につながる。 ・プールの維持管理の必要がなく教員の負担が少なくなる。 ・プールの跡地を別の用途で活用できる。 ・児童数が減少した場合、委託料が減少する可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バスでの往復の移動時間を考慮しなければならない。 ・民間施設が廃止された場合は水泳授業ができなくなる。 ・冬季の授業における寒さ対策などの健康管理が必要である。
【ケース3】 一部の学校プールを更新した場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクルコストが一番安い。 ・プールを更新した学校は、ケース1のメリットがある。 ・温水プールに移行した学校は、ケース2のメリットがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プールを更新した学校は、ケース1のデメリットがある。 ・温水プールに移行した学校は、ケース2のデメリットがある。 ・児童の学習環境の平等性が保てない。

第5章 小学校プール管理運営基本方針及び全体計画

1. 小学校プール管理運営基本方針

小学校プールを更新した場合と温水プール利用に移行した場合、新たな温水プールを建設せず、既存温水プールを最大限（20校）活用しつつ、一部の学校（5校）を更新した場合のそれぞれメリット・デメリットを踏まえて、小学校プール管理運営基本方針を整理します。

小学校プールを現在と同程度の規模で建設し、50年間維持・管理して使用した場合のLCCは117億905万円になります。児童数が減少していく中でも、更新・改修など施設費は一定しています。

学校プールを更新した場合のメリットは、校内にプールがあることで、施設の移動時間が少なく授業時間を有効に活用することができる点が挙げられます。一方、デメリットとして、屋外のため天候に左右されやすく、近年の猛暑下での水泳授業は、熱中症や足の裏のやけどなど安全に注意しながら実施する必要があります。

また、プールの清掃及び点検、水質の管理等安全に水泳授業を行うために、教員の負担が多くなる点が挙げられます。

次に、すべての小学校を温水プール利用に移行するためには、水泳指導支援事業を導入した場合の50年間の経費40億4千952万円と新たな温水プールの建設から50年間使用した場合のLCC41億9千737万4千円を合算した82億4千689万4千円が必要になります。

水泳指導支援事業については、児童数・学級数が減少した場合には経費が減少する可能性があります。また、新たな温水プールを整備することで、小学校の水泳指導事業で使用するだけでなく、一般開放を行っていくため、新たな市民サービスを提供することができます。

温水プールの利用に移行した場合のメリットは、天候や気温に左右されることがなく年間を通じて安定した水泳授業が受けられること、専門のインストラクターの指導が受けられるため泳力の向上につながることで、プールの維持管理の必要がなく教員の負担が少なくなることが挙げられます。一方、デメリットとして、温水プールへの移動時間がかかること、民間施設が廃止された場合は水泳授業ができなくなることが挙げられます。

また、「小学校水泳指導支援委託事業」を実施している3校を対象とした「温水プールを利用した水泳授業のアンケート」では、児童、保護者及び教員からの回答は、約9割が温水プールを利用した水泳授業について「良いと思う」という結果になっています。良いと思う理由として、児童が楽しく授業を受けていること、天候や気温に関係なく実施できることなど挙げられています。温水プールを実施していない学校関係者のアンケートでは、約8割が「実施したい」という回答がありました。

以上のことにより、学校施設の観点からは、今後、児童数や学級数が減少していく中で、年間の使用日数が極めて少ないプールをすべての小学校に建設して維持・管理して使用していくよりも温水プール利用に移行した方が教育的意義が高く経済的にも一定の効果があるものと考えられます。

また、水泳授業の観点からは、温水プールは天候に左右されることがなく年間を通じて安定的な水泳授業が受けられる環境でした。

最後に、新たな温水プールを建設せず、既存温水プールを最大限（20校）活用しつつ、一部の学校（5校）を更新した場合のLCCは、54億4千900万円と試算され、一部の学校プールを更新する方法がコスト面で最も優れています。プールの手法が混在することで児童の学習環境の平等性が保てないことは、避けなければなりません。また、温水プールに移行した場合における多くのメリットを考慮する必要があります。

したがって、教育委員会としては、義務教育の公平性の観点、全ての子どもたちに質の高い水泳指導を保障するという観点からも、温水プールに全面移行することとしていくべきと考えます。

以下、すべての小学校が段階的に温水プールの利用に移行していくために、次のとおり小学校プール管理運営基本方針を定めます。

小学校プール管理運営基本方針

- 小学校の水泳授業については、速やかに温水プールへの移行を目指すものとする。
- 移行の順序については、原則として、建築後50年を経過した学校から順次利用可能な温水プールの水泳指導支援事業を実施する。
- 施設の老朽化により、使用が困難になった場合は、建築年数によらず優先的に温水プールの水泳指導支援事業を実施するものとする。
- 新たな温水プールが整備され、すべての小学校の受け入れが可能になった時点で、建築後50年を経過しない学校についても、原則として速やかに温水プールを利用した水泳指導支援事業に移行する。

2. 小学校プールの全体計画

(1) 温水プールへの学校割り当て

温水プールでの授業を実施するためには、各学校からの移動時間を考慮するとともに、温水プールでの授業実施可能な回数と各小学校の水泳授業必要回数を勘案し、次のように各学校が利用する温水プールを割り当てます。

なお、新たな温水プールについては、地理的バランスに優れた市の南部地域に必要であり、建設時期についても学校プールの老朽化に対応した速やかな移行が可能な令和11年度を目標に整備していただくことが望ましいと考え、これらの条件が整うことを想定した割り当てとしました。

施設名	割り当てる学校
西尾ドルフィンSC	西尾小学校 鶴城小学校 西野町小学校 米津小学校 中畑小学校 平坂小学校 矢田小学校
ホワイトウェイブ21	花ノ木小学校 ハツ面小学校 福地北部小学校 室場小学校 三和小学校 横須賀小学校 津平小学校 幡豆小学校 東幡豆小学校
新たな温水プール	寺津小学校 福地南部小学校 一色中部小学校 一色東部小学校 一色西部小学校 一色南部小学校 荻原小学校 吉田小学校 白浜小学校 佐久島しおさい学校

※6レーン以上の公設プールの新設を想定。

【参考資料1】プール別授業実施可能枠数

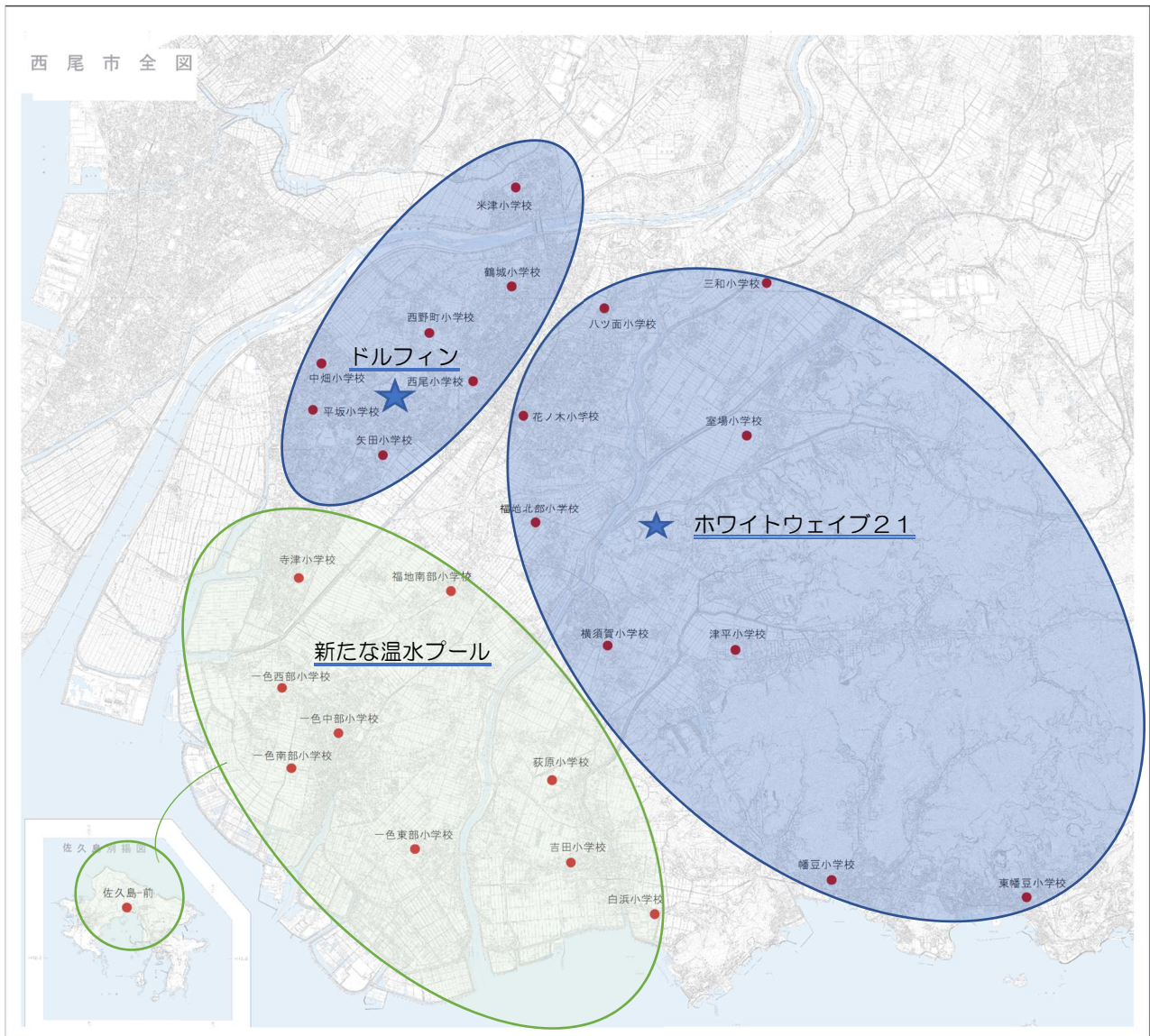
施設名	週当たり可能枠	年間(28週)可能回数
西尾ドルフィンSC(6レーン)	4回(AM)×5日=20回	560回
ホワイトウェイブ21(6レーン)	4回(AM)×5日=20回	560回
公設プール(新設)(6レーン)	4回(AM)×5日=20回	560回

【参考資料2】温水プール別小学校必要回数

西尾ドルフィンSC			ホワイトウェイブ21			新たな温水プール		
学校名	学級数	必要回数	学校名	学級数	必要回数	学校名	学級数	必要回数
西尾	23	92	花ノ木	20	80	寺津	13	52
鶴城	24	96	ハツ面	18	72	福地南部	13	52
西野町	13	52	福地北部	11	44	一色中部	16	64
米津	15	60	室場	9	36	一色東部	12	48
中畑	12	48	三和	15	60	一色西部	13	52
平坂	17	68	横須賀	16	64	一色南部	9	36
矢田	31	124	津平	7	28	荻原	13	52
			幡豆	12	48	吉田	12	48
			東幡豆	7	28	白浜	7	28
						佐久島	1	4
合計	135	540	合計	115	460	合計	109	436

※特別支援学級は人数に応じて1学級もしくは2学級として算入。※1回は2時限相当、年間4回の授業(8時限相当)を実施。

■ 温水プールの学校割当図



(西尾市全図を基に加工)

(2) 小学校水泳授業の温水プールへの移行計画

小学校プール管理運営基本方針に従い、学校の温水プールへの移行先及び時期を次のように定めます。

施設名	第1期計画期間		第2期計画期間
	令和5年度	令和6年度～令和10年度	令和11年度～令和15年度
西尾ドルフィンSC	矢田小学校	平坂小学校 寺津小学校 一色南部小学校 一色西部小学校 佐久島しおさい（前期）	米津小学校 鶴城小学校 西尾小学校 西野町小学校 中畑小学校
ホワイトウェイブ21	花ノ木小学校 横須賀小学校	東幡豆小学校 八ツ面小学校 幡豆小学校 福地南部小学校 一色東部小学校	福地北部小学校 室場小学校 津平小学校 三和小学校
新たな温水プール			寺津小学校 一色南部小学校 福地南部小学校 一色東部小学校 一色西部小学校 佐久島しおさい（前期） 一色中部小学校 荻原小学校 吉田小学校 白浜小学校

※寺津小学校、一色南部小学校、一色西部小学校、福地南部小学校、一色東部小学校は、新たな温水プールに割り当てられているが、新たな温水プールが建設されるまでは、既設の温水プールで水泳指導支援事業を実施する。

※佐久島しおさい（前期）は、一色南部小学校の学校プールを利用しているため、一色南部小学校の移行に合わせる。

参考資料

「温水プールを利用した水泳授業アンケート」集計結果

「温水プールを利用した水泳授業アンケート」集計結果

1 調査内容

- 温水プールを利用した水泳授業についてどう思うか。(単一選択式)
- その理由(複数選択式・記述式)
- 温水プールを利用した水泳授業についての意見(記述式)

2 調査対象

- 温水プールを利用した水泳授業を実施している小学校(3校)の高学年児童
- 温水プールを利用した水泳授業を実施している小学校(3校)の保護者
- 温水プールを利用した水泳授業を実施している小学校(3校)の教員
- 温水プールを利用した水泳授業を実施していない小学校(2校)及び義務教育学校(1校)のPTA会長及び校長

3 調査方法

- 児童
学習用タブレットを利用した「Google Form」によるWEBアンケート
- 保護者及び教員
学校と家庭の連絡ツール「すぐーる」によるWEBアンケート
- 校長及びPTA会長
「Google Form」によるWEBアンケート

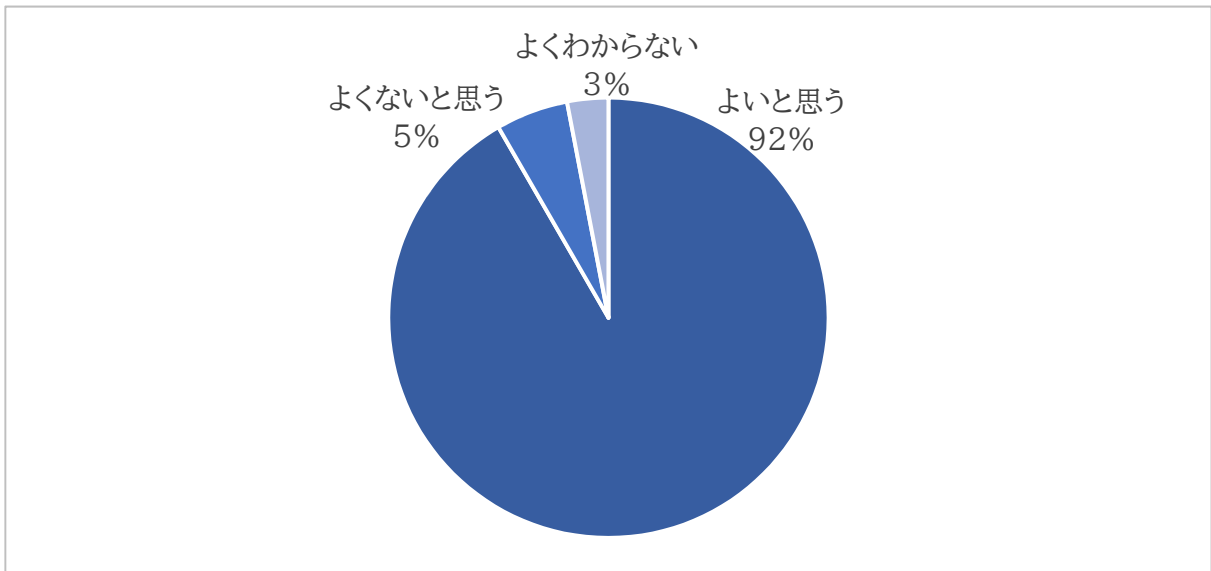
4 調査期間

- 令和4年6月21日(火)～7月7日(木)

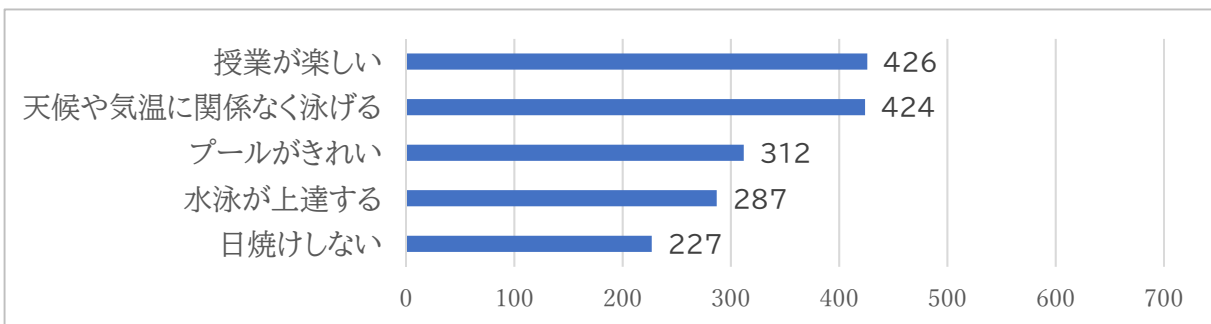
西尾市教育委員会

1 実施校高学年児童（回答数 696 人）のアンケート結果

(1) 温水プールを利用した水泳授業についてどう思いますか。

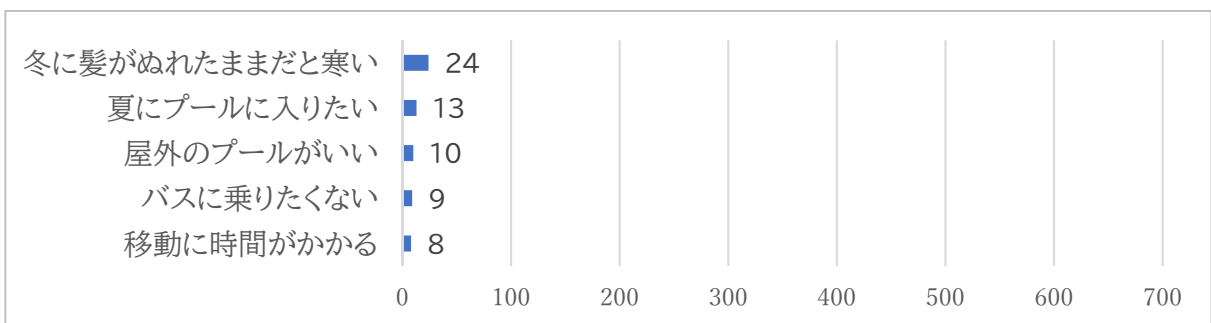


(2) 「よいと思う」理由



※その他 「先生がやさしい」「教え方がていねい」「水が冷たくない」
「プールサイドが熱くない」「バスの移動が楽しい」

(3) 「よくないと思う」理由



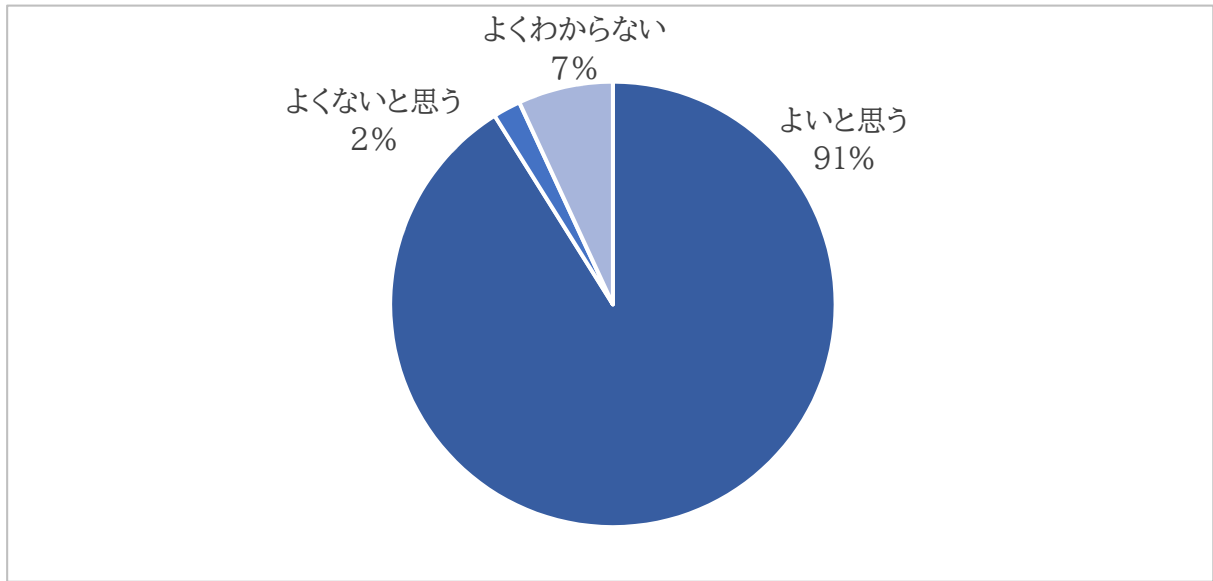
※その他 「温水だと泳いでいるときに暑い」「水が冷たいほうが気持ちいい」
「更衣室が寒い」

(4) 温水プールを利用した授業についての意見

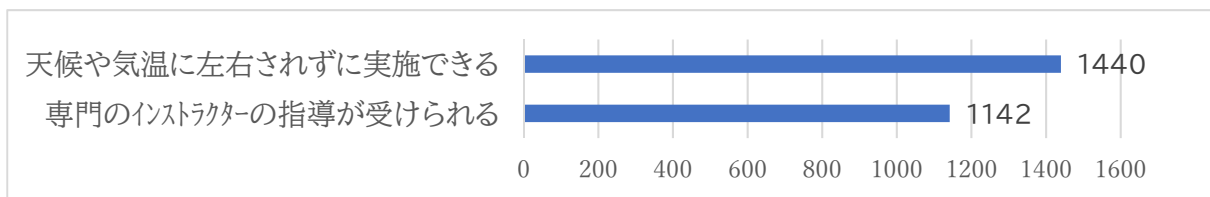
- 授業時間、回数を増やしてほしい。
- 中学校でもやってほしい。

② 実施校保護者（回答数 1,694 人）のアンケート結果

(1) 温水プールを利用した水泳授業についてどう思いますか。

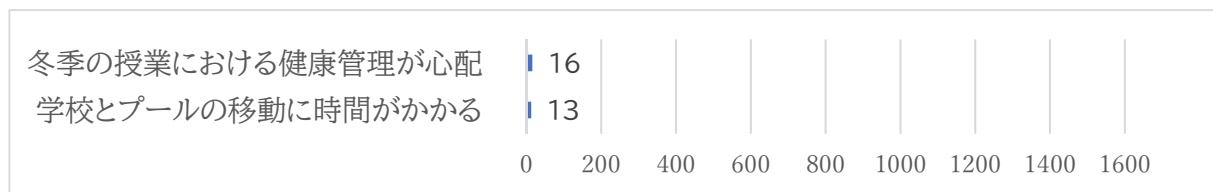


(2) 「よいと思う」理由



※その他 「安全管理がしっかりしている」「更衣室やシャワー室が充実している」
「施設が清潔で衛生的」「不審者に覗かれることがない」「個々の能力や個性に合わせて指導してもらえる」「日焼けや紫外線の心配がない」「熱中症の心配がない」「プールの維持管理コストの削減」「プール管理等の教員の負担軽減」

(3) 「よくないと思う」理由



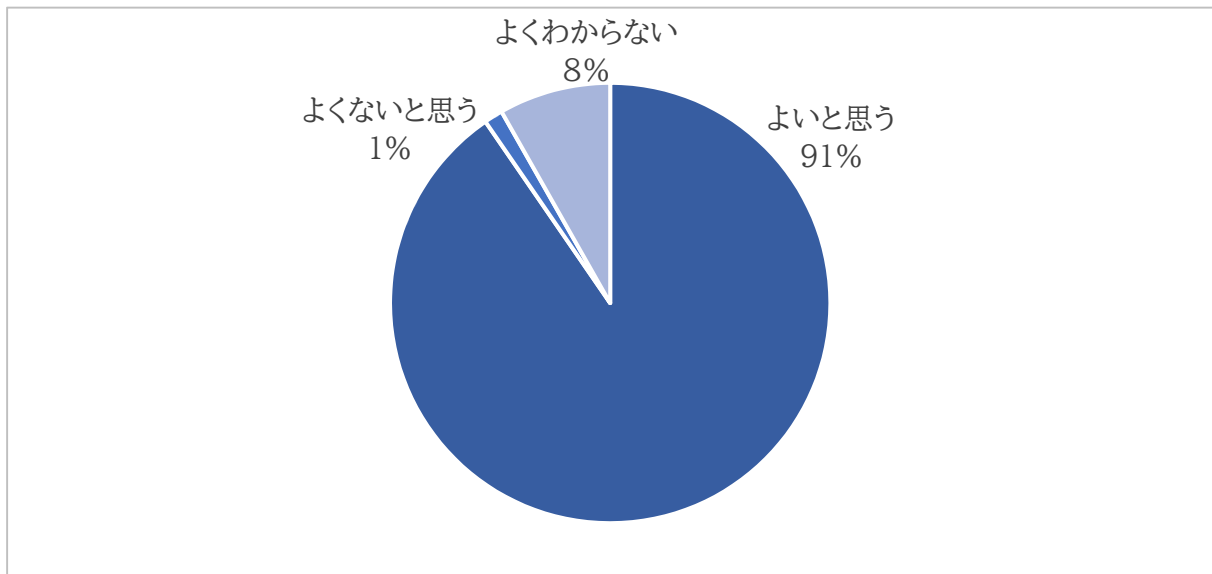
※その他 「回数が少ない」「授業間隔が空いてしまう」「水泳は夏に実施してほしい」
「長期的には学校のプールの方が経済的ではないか」「病気感染が心配」

(4) 温水プールを利用した授業についての意見

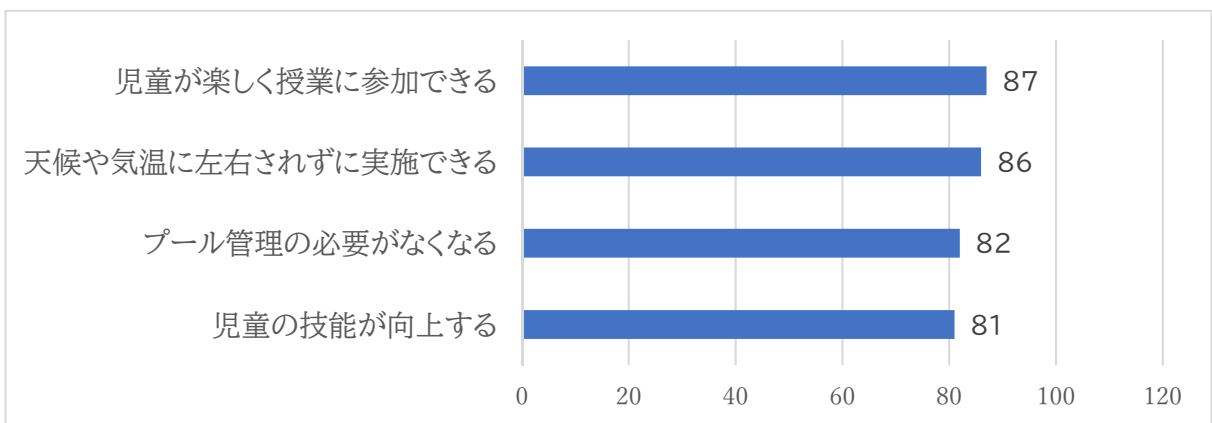
- ・回数を増やしてほしい。授業の間隔が空かないようにしてほしい。
- ・子供が楽しみにしている。 ・今後も続けてほしい。 ・市内全ての学校で実施してほしい。
- ・冬季の水泳授業は避けてほしい。ドライヤーの使用を認めてほしい。

③ 実施校教員（回答数 119 人）のアンケート結果

(1) 温水プールを利用した水泳授業についてどう思いますか。

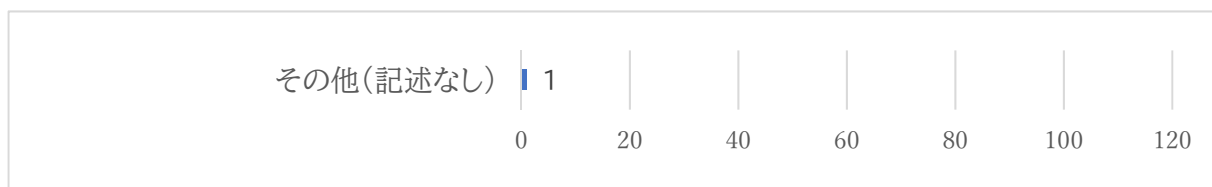


(2) 「よいと思う」理由



※その他 「教員が評価及び児童の安全管理に専念できる」
「インストラクターの指導によりどの学級も同一歩調で進められる」

(3) 「よくないと思う」理由

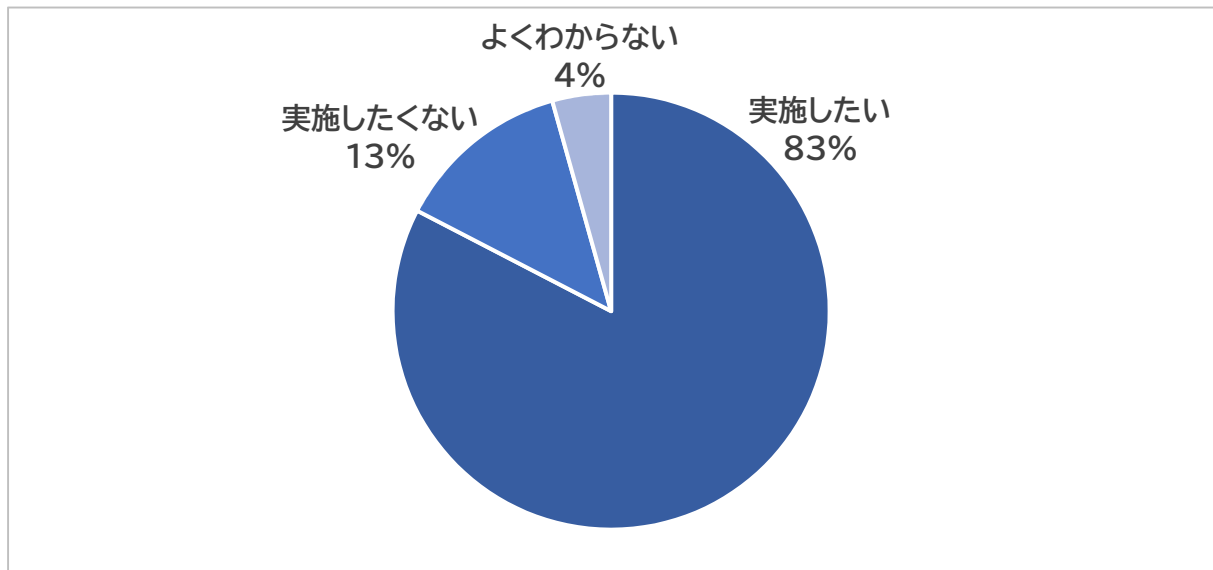


(4) 温水プールを利用した授業についての意見

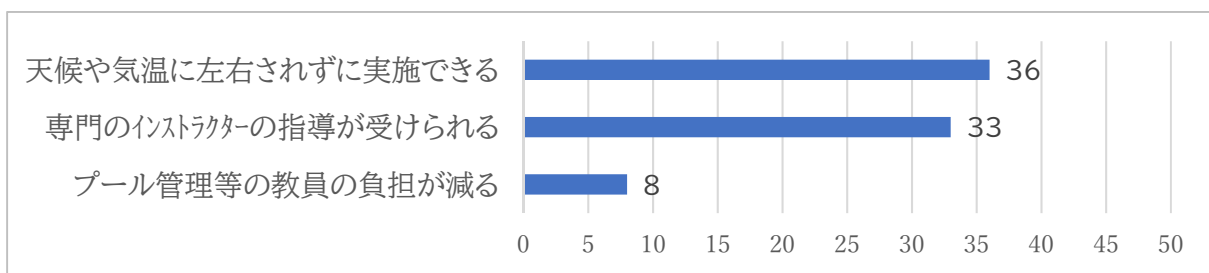
- 往復の時間を考えると、市内に複数の温水プールがあるとよい。
- 回数が増えるとよい。
- 冬は濡れた髪で外に出るので、風邪をひくのが心配。

4 未実施校PTA会長・校長（回答数 46 人）のアンケート結果

(1) 温水プールを利用した水泳授業についてどう思いますか。

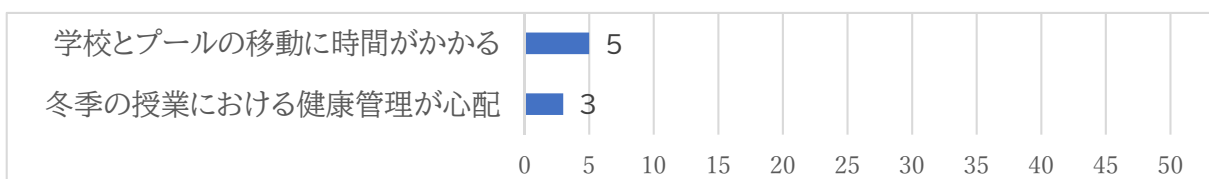


(2) 「実施したい」理由



※その他 「プール跡地が有効活用できる」「衛生面で安心」

(3) 「実施したくない」理由



※その他 「津波被害が懸念される地区なので、自校のプールでの授業回数をなるべく増やしてもらいたい」

(4) 温水プールを利用した授業についての意見

- ・施設の老朽化、更衣室の問題、熱中症の危険性など、学校プールで水泳授業を実施することは困難になってきているように感じる。
- ・着衣泳等の訓練など、学校のプールでは難しいような実践があるとありがたい。
- ・現場の人員が逼迫していることを考えると、インストラクター配置はありがたい。
- ・学校からの移動など子どもの負担を考えると現状維持が望ましいが、学校プールの稼働率や維持管理費を重視した施策であれば納得せざるを得ない。
- ・移動中の交通事故への懸念については保護者への説明が必要となるかもしれない。